

## まえがき

本文献解題は、2006年から2010年にかけて出版されたインドネシア語の雑誌から社会科学関連の記事を選び出し、解説を行ったものである。また、『変動するインドネシア(1996-2000)——政治・経済・社会関連インドネシア語雑誌記事・論文解題——(高橋宗生編著)』および『変動するインドネシア(2001-2005)——政治・経済・社会関連インドネシア語雑誌記事・論文解題——(同編著)』の続編にあたる。

世界ではグローバル化の進展により英語が重要なコミュニケーション言語になりつつあるが、東南アジア諸国ではベトナム語、タイ語、ビルマ語、マレー語、インドネシア語など現地固有の言葉が国語として発展し、それらの言葉で書かれた数多くの雑誌が出版されている。それぞれの雑誌に掲載された記事には、英文雑誌では知りえない多くの情報が詰まっており、各国の実情と発展の方向性を知る上で欠かせない資料となっている。本文献解題を作成した動機は、アジア経済研究所図書館の雑誌記事索引の採録対象誌外ではあるが、重要と思われるインドネシア語雑誌の記事を整理し、その内容を解説することでインドネシアをフィールドにする専門家、ビジネスマン、研究者などの情報収集や研究に活用していただきたいと考えたからであった。

本文献解題を活用するにはインドネシア語を多少なりとも理解できることが一つの条件となるが、その方法には2つあると考える。一つは関心を抱いた主題やテーマから直接記事を探す方法である。もう一つは、索引から調べたい人名や企業名などを探して、そこに記されたアイテム番号の文献にアクセスし、当該記事を読む方法である。

また、インドネシア語がわからなくても、あるいは特定の文献を探して読まない場合でも、通読することで当地のジャーナリストたちが注目した現代社会の出来事や問題を知っていただければ幸いである。

最後になったが、5部からなる各部概要の内容に関して貴重なコメントをいただいたアジア経済研究所地域研究センターの川村晃一研究員に感謝したい。ただし、本文献解題に誤りがあるとすれば、その責任は編著者個人に帰することはいうまでもない。

本文献解題で取り上げた1986点の雑誌記事は、そのすべてが千葉市幕張地区にある日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館において閲覧と複写が可能である。多くの方々のご利用をお待ちしている次第である。

2012年1月

高橋宗生